

学術コミュニケーションシステムの変革期における大学図書館の役割

千葉大学附属図書館
情報サービス課長
尾城 孝一

ojiro@ll.chiba-u.ac.jp

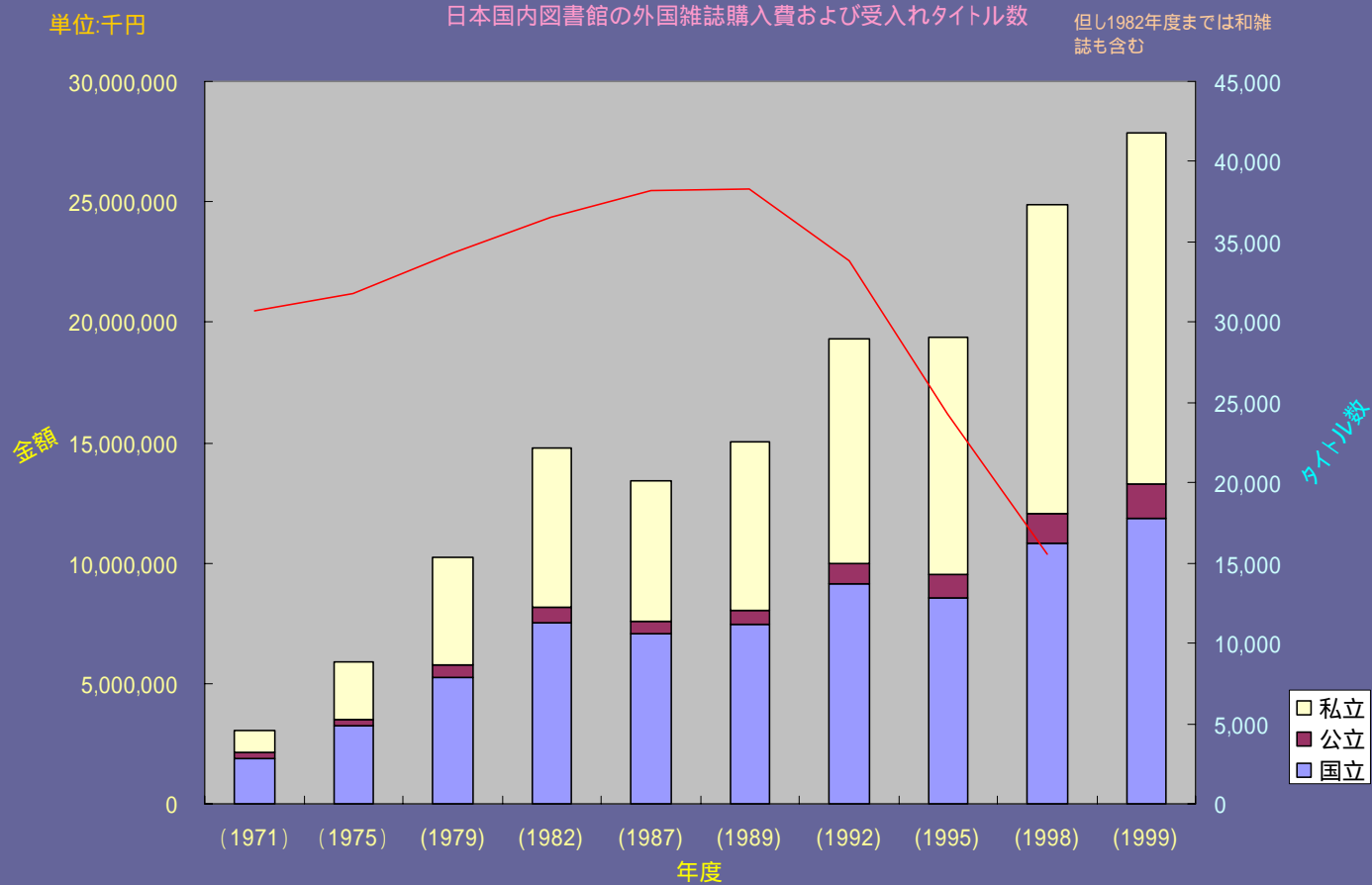
アウトライン

- 「雑誌の危機(シリアルズ・クライシス)」と大学図書館
- 電子ジャーナル・タスクフォースの活動と成果
- コンソーシアムを越えて

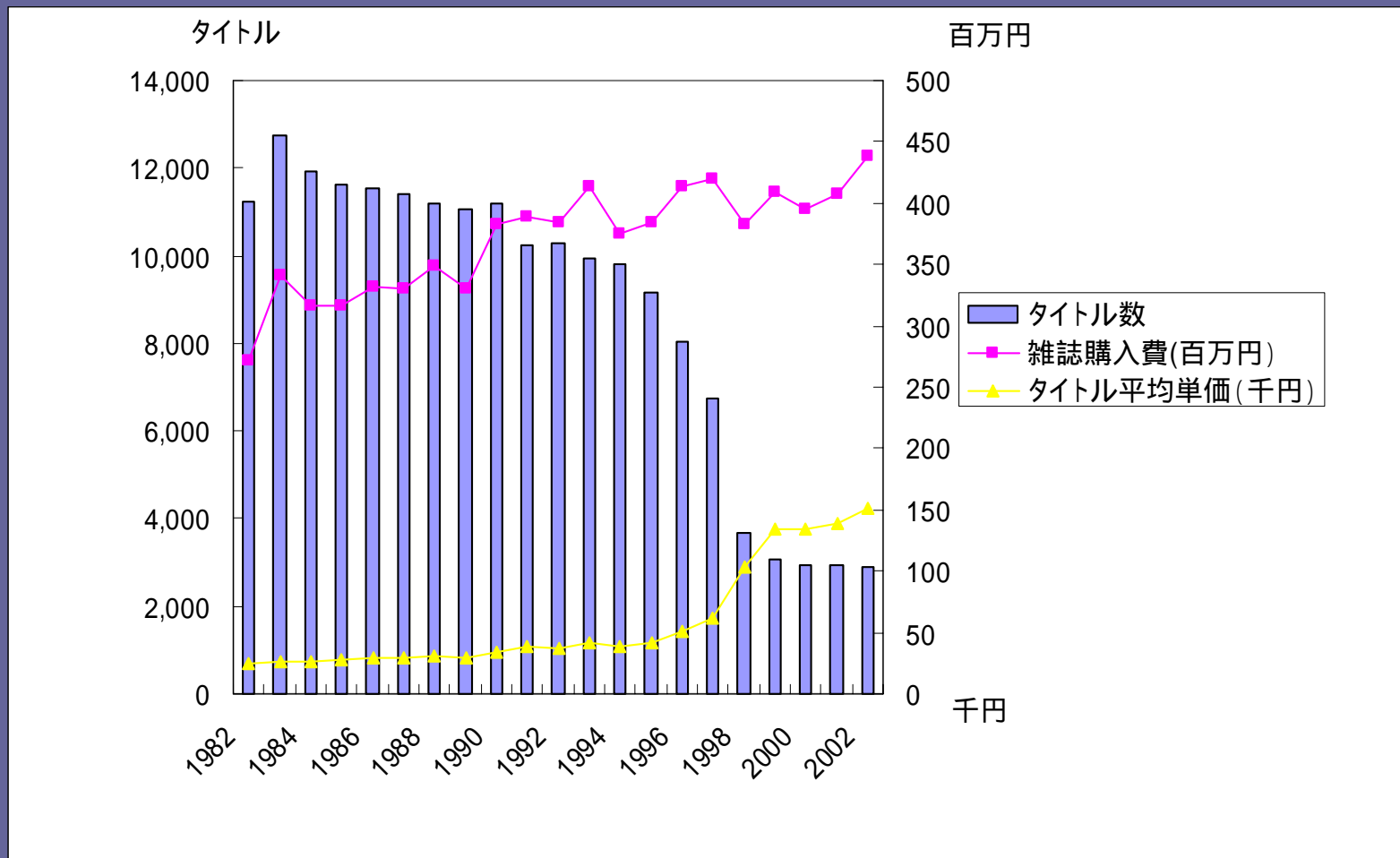
シリアルズ・クライシス

- 継続的な価格高騰による購入額の大幅な増加と購入タイトル数の減少

大学図書館における実態



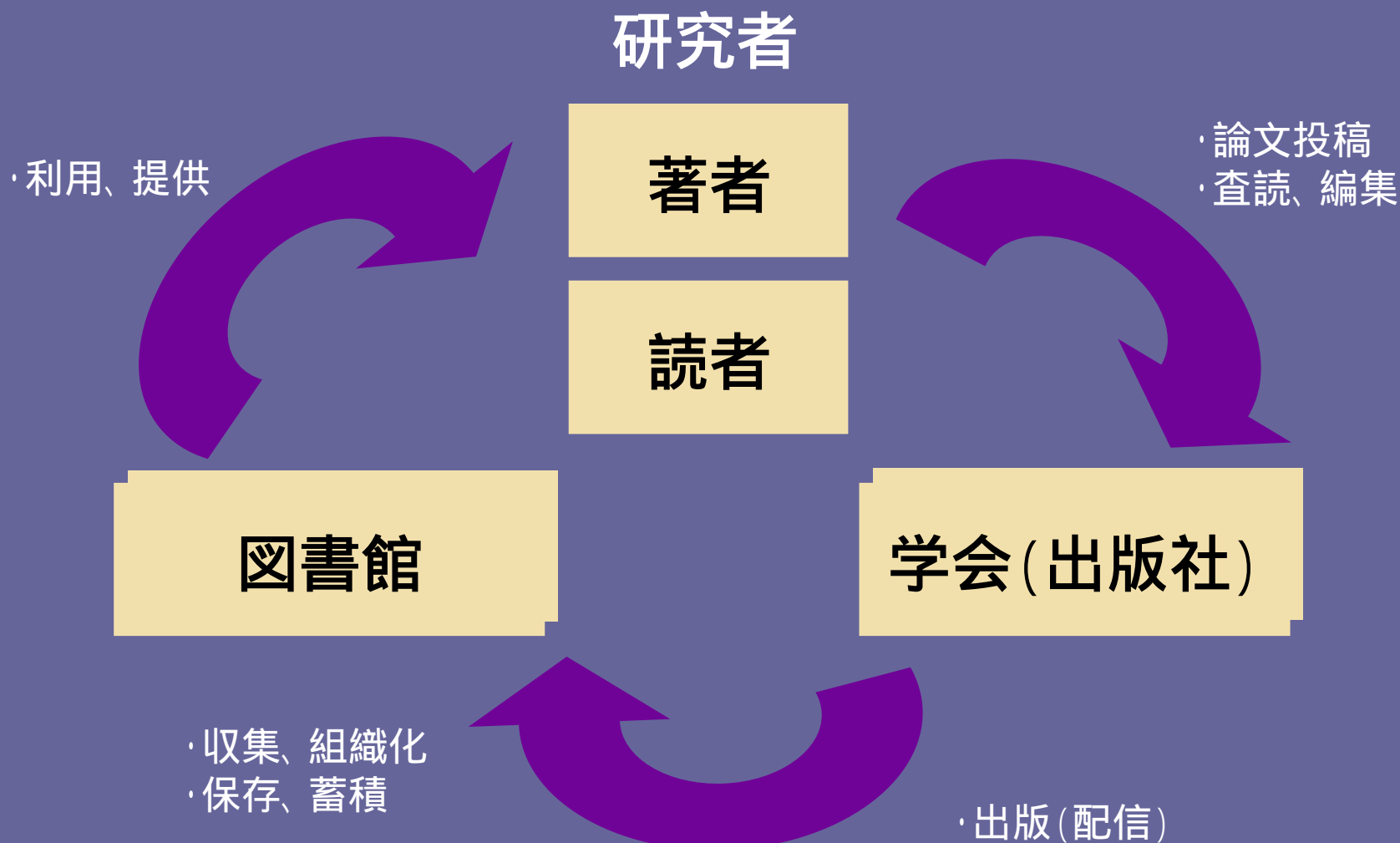
国立国会図書館における実態



北米の実態

- ARL (Association of Research Libraries) の統計 (1986年 - 1999年)
 - 雑誌タイトル単価 +207%
 - 雑誌購入費 +170%
 - 雑誌受入タイトル数 -6%
 - 単行本受入タイトル数 -26%
 - 教員給与 +68%
 - 消費者物価指数 +49%

無償贈与のサークル(Circle of Gift)



研究成果の爆発的増加

- ビッグサイエンス
 - 20世紀半ば～
 - 大規模研究プロジェクト(マンハッタン計画、アポロ計画、核融合、加速器、遺伝子解読等々)
 - 研究競争の激化、研究者数増加 論文数の増加 刊行経費の上昇 価格高騰
- 「出版せよ、しからずんば、破滅せよ(publish or perish)」という評価システムの支配

商業出版社の進出と市場独占

- 新たな出版経路への需要の高まり
- 商業出版社の進出
- 学会誌の吸収
- 買収による大規模出版社の寡占
 - 買収による値上がりの実例(医学生物学分野)
 - Pergamon Elsevier
 - 旧Pergamonタイトルは22%値上がり
 - Lippincott Kluwer
 - 旧Lippincottタイトルは35%値上がり

学術雑誌の特殊性

- A誌a論文 B誌b論文
 - 互いに代替できない
 - 非競争的な市場
- 価格に対する非弾力的な需要
 - どんなに価格が上昇しようとも、図書館はその雑誌が必要である限り、買い続ける
 - 具体例
 - 医学生物学系1,000タイトルの価格は1988年から1998年の間に3倍
 - 194の医学図書館購読タイトル数は1.5%減少しているに過ぎない

大学図書館の対応

- 雑誌購入費の確保
 - 大学当局や本省への増額要求
 - 図書購入費の流用
- 購入タイトルのキャンセル
- ILLへの依存
 - 少数の図書館への依頼集中 機能不全

電子ジャーナルの登場と普及

- 商業出版社による電子ジャーナル化の推進(1990年代後半)
- オンライン査読誌数の推移 (ARL Directory of Scholarly Electronic Journals and Academic Discussion Lists)
 - 1991年 7タイトル
 - 1997年 1,049タイトル
 - 2000年 3,915タイトル
 - 2002年 5,451タイトル

電子ジャーナルのメリット

- 利用者の立場から
 - 速報性、検索機能、リンク機能、動画・音声による表現力の向上、時間的・空間的制約の解消、複数利用者の同時利用
- 図書館の立場から
 - 重複購入削減、雑誌管理業務(受入・製本等)の軽減、ILL業務の軽減、書架スペースの節約

価格面での期待と現実

- 価格低下への期待
 - コスト
 - 製作コスト、頒布コストの低減化
 - 電子ジャーナル < 冊子体
 - 様々な試算
 - 冊子体の24% (Fisher, J.H.)
 - 冊子体の80% (Fishwick, F. et al.)
 - 70-80%の節約可能 (Harnad, S)
- 現実
 - 冊子体との並行出版
 - バンドル価格
 - 冊子体キャンセル禁止条項の存在

コンソーシアムの形成

- **コンソーシアム戦略**
 - 購買力と交渉力の強化
 - Value for Moneyの向上
- **海外のコンソーシアム**
 - 地域別
 - OhioLINK、VIVA
 - 全国レベル
 - NESLI (英国)、CNSLP(カナダ)、CAUL(オーストラリア)、KESLI (韓国)
 - **コンソーシアムのコンソーシアム**
 - ICOLC(国際図書館コンソーシアム連合)

日本のコンソーシアム

- 先駆的活動
 - EES共同利用(東京工業大学 + 長岡技術科学大学)
 - IDEAL、SwetScan共同利用(長岡技術科学大学 + 高専)
 - Web of Scienceの試行(九州地区国立大学図書館)
- 本格的コンソーシアムの形成
 - 日本イデアルコンソーシアム
 - 国立大学図書館協議会電子ジャーナルタスクフォース
 - 長岡技大 - 高専コンソーシアム
 - 医学図書館協会、薬学図書館協議会

タスクフォースの活動

- 出版社との協議
 - 2002年向け
 - Elsevier、Wiley、Springer、Blackwell、ISI
 - 2003年向け
 - Nature、Kluwer、IEEE Computer Society、ProQuest、EBSCO、CSA
 - 国立情報学研究所のアーカイブ事業との連動
- 利用の現状と将来に関する調査
 - 平成13年4月に実施
 - 10大学(旧7帝大 + 千葉大学、東京工業大学、広島大学)の教官、大学院生(3,000名)を対象
- 教育担当者研修会

成果 (有料EJ購入タイトル数)

	2001年	2002年
総数	30,127	139,366
4,000-	1大学	2大学
3,000-3,999	0大学	4大学
2,000-2,999	3大学	17大学
1,000-1999	5大学	41大学
-999	93大学	38大学

コンソーシアムの問題点

- 値上がりは続く！！
 - Price Cap (値上げ率の上限設定) が最大限の努力
- ビッグディール問題
 - メリット
 - value for moneyの向上
 - 危険性
 - 選書権喪失
 - 歪んだコレクション
 - 出版社への依存度強化

コンソーシアムの限界

- シリアルズ・クライシスの特效薬ではない
- あくまで一時的な対症療法

ポストコンソーシアム戦略

- 研究者コミュニティとの連携
 - 研究論文の著者、発信元である研究者コミュニティ(研究者個人、学会、学部学科等)との連携が今後の大学図書館に求められている！！

研究者によるイニシヤティブ

- eプリントアーカイブへのセルフアーカイビング
- 著作権保持運動
- 編集委員の反乱
 - 高額誌から離脱 リーズナブルな新雑誌創刊
- ボイコット運動
 - [PLoS \(Public Library of Science\)](#)

SPARC

- SPARCとは
 - 1998年に創設されたARLのプロジェクト
 - 米国その他の200を越える図書館が参加
- 使命
 - 学術出版の市場における競争の促進
 - シリアルズ・クライシスの解消

SPARCの活動領域

- 出版提携
 - 高額誌と直接競合するタイトル(SPARCブランド誌)の支援
 - 新しい学術出版モデルに対する援助
- アドボカシィ (Advocacy)
 - 図書館員、研究者、雑誌編集委員を対象
 - 代替システムの提唱・擁護運動

SPARC Japan

- 国立情報学研究所での取り組み
 - JST、SPARC、学会、大学図書館との連携
 - 国内の学会の情報発信力の強化
 - 世界に通用する学会誌の創刊と育成

大学におけるSPARC的活動の可能性

- 共同購入プログラムへの参加
 - [SPARCブランド誌](#)の積極的購入
- 大学リポジトリ(Institutional Repository)の構築
 - [DSpace](#)(MIT)、[eScholarship](#)(カリフォルニア大学)等
- キャンパス内でのアドボカシー運動
 - Create Changeの[日本語版](#)の活用
 - Create Changeのローカライズ

まとめ

- 今後の大学図書館員の役割
 - コンソーシアムによる共同購入体制の強化(現行の学術コミュニケーションシステム内での努力)
 - 利用促進
 - 利用実績に基づいた
 - 中央予算の確保
 - 学内予算の集約化
 - 改革の促進(パラダイム転換のための取組み)
 - 研究者コミュニティとの連携
 - SPARC的運動への協力
 - 大学リポジトリ(Institutional Repository)の構築
 - アドボカシ活動の展開